

入選

心のささえ

熊本県 熊本大学教育学部附属小学校 四年

村田 惺哉

今年も水泳の時期になりました。ぼくは、「最後まで泳ぎたい」と気持ちが高まりました。水泳の授業が始まり、ぼくはマイペースに、一人でもくもくと練習していましたが、なかなか目標にとどきません。すると大翔君が、

「ぼくが教えてあげる。」

と自分のコースから外れ、一人でいるぼくのところに来てくれました。そして、大翔君は親切にクロールの泳ぎ方を教えてくれました。

まずは、ぼくの両足を持ち、ひざを伸ばしながら、ゆっくりと両足を動かし始めました。

「こんなふうにするんだよ。」

と言い、次にうでの動きを教えてくださいました。

「息つきは、顔をななめにして、耳をうでにくっつけるといいよ。」

と、大翔君は見本を見せて、ぼくのうでをつかみ、体をささえながら、姿勢を正しくしてくれました。ぼくは感覚を覚えるまで、ひたすら努力しました。

これまで15メートルほど泳げていましたが、大翔君に教わってから、その日初めて25メートル泳げました。大翔君が授業中ずっとぼくによりそい、教えてくれたおかげだと思いました。

目標を達成できて、とてもうれしく、大翔君といっしょに笑顔になりました。大翔君との経験をきっかけに、水泳が楽しくなり、好きになり、自信もついてきました。

いよいよ水泳大会の日をむかえました。特別な日のように感じ、ドキドキしました。そして、ぼくの番になり、スタートの位置にならびました。

「村田さん。」

と、先生から名前をよばれました。ぼくは、力強く大きな声で返事をしました。気合が入ってきます。

「ぜったいに泳ぎきるぞ」と、自分にちかいました。

そして、一斉にスタートしました。ぼくは無心に、ひたすらがんばりました。気づくともう、ゴールが目の前でした。

(やったー！ゴールできた。)

と、心の中でさけび、プールサイドに上がりました。とても気持ちが良く、自分が成長できたのを実感しました。順番待ちしていた大翔君が、ぼくに手を伸ばしてきて、「やったね。」と、まるで自分のことのように笑顔で、ぼくといっしょによろこんでくれました。

ぼくは、大翔君や周りの友達も応援してくれたことが、とても心のささえになりました。今まで、自分の練習時間をぼくに教えてくれる時間にしてくれて、大翔君に感謝しています。

大翔君、ありがとう。ぼくは笑顔になれたしゅん間を胸にきざみ、友達の温かい心を大切にしようと思います。